

1 ねらい

・教育活動、その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき教育活動・学校運営の改善を図る。

2 アンケート実施期間 平成30年12月

3 対象者 生徒913名、全保護者913名（生徒数）、全教員 64名

4 回答率 (%) ※生徒1名について、1枚の評価をいただいた方もおります。

	生徒	保護者	教員
回答数	859名	828名	64名
回答率	94.0%	90.6%	100%

5 アンケート結果と考察

「そう思う、大体そう思う」と答えた生徒・保護者についての割合でグラフを作成。

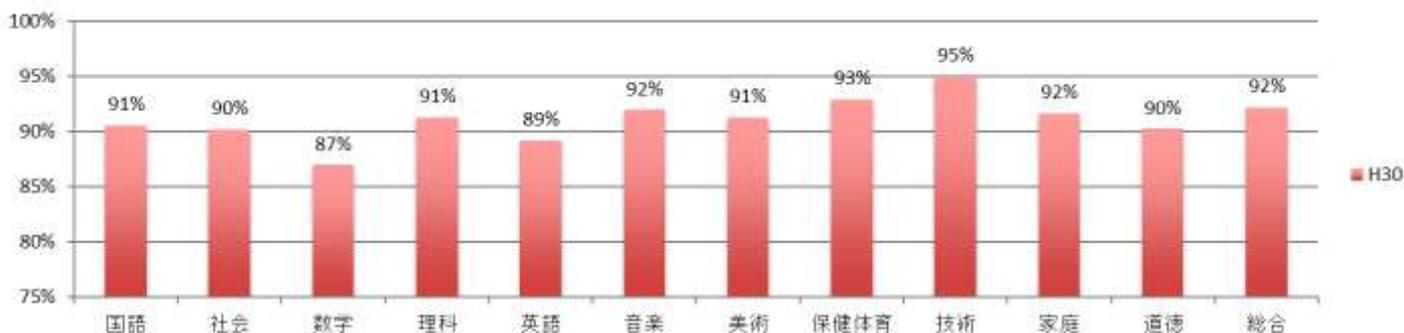
## < 生徒 >

### (1) 学習面：各教科への取り組みについて

**質問：授業への取り組み 「(各教科の) 授業に積極的な態度で取り組む。」**

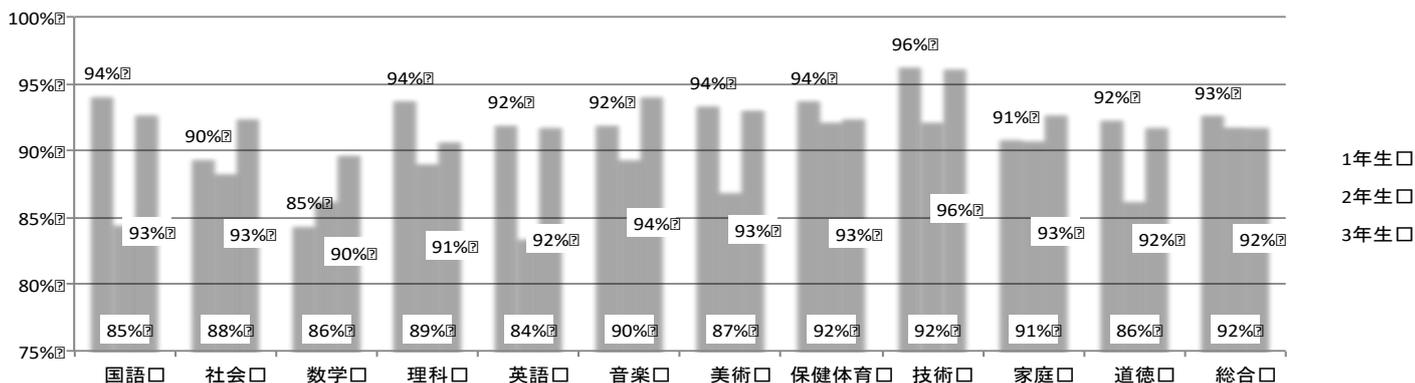
※昨年度は「各教科に興味・関心を持って取り組んでいる」かどうかを尋ねたが、授業評価に絞るため、今年度は「各教科の授業に積極的な態度で取り組んでいる」かどうかについて尋ねた。

- 【全校生徒】
- ・ほぼ全教科とも、90%前後の生徒が積極的に授業に取り組んでいる。
  - ・特に保健体育、技術に積極的に取り組んでいる生徒が多い。数学、英語に積極的に取り組む生徒がやや少ない。



【学年別】・1年生、3年生ともに全体的にどの教科も積極的に取り組んでいる。特に1年は国語、理科、美術、保健体育、技術で、2年は保健体育、技術、総合で積極性が見られる。3年生は積極的に取り組んでいるという生徒が、全教科とも9割以上である。

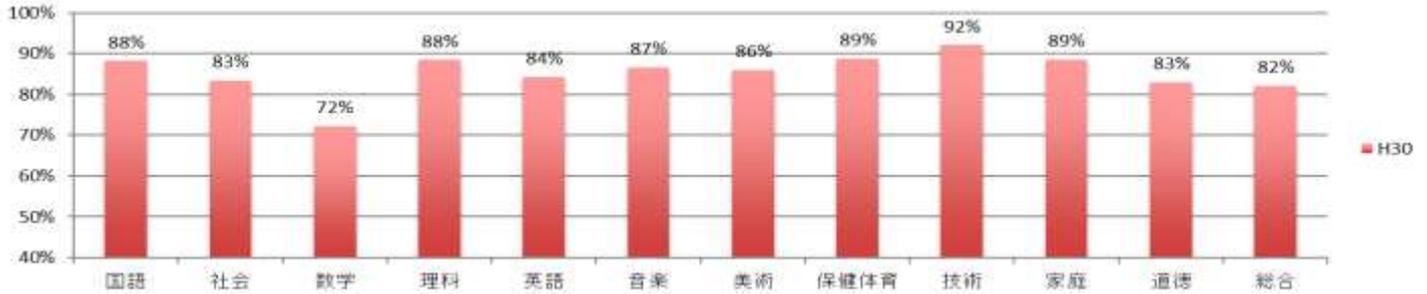
- ・個別にみると、国語の2年生、数学の1年生、英語の2年生が8割5分以下で他と比べると、やや積極性が低い。



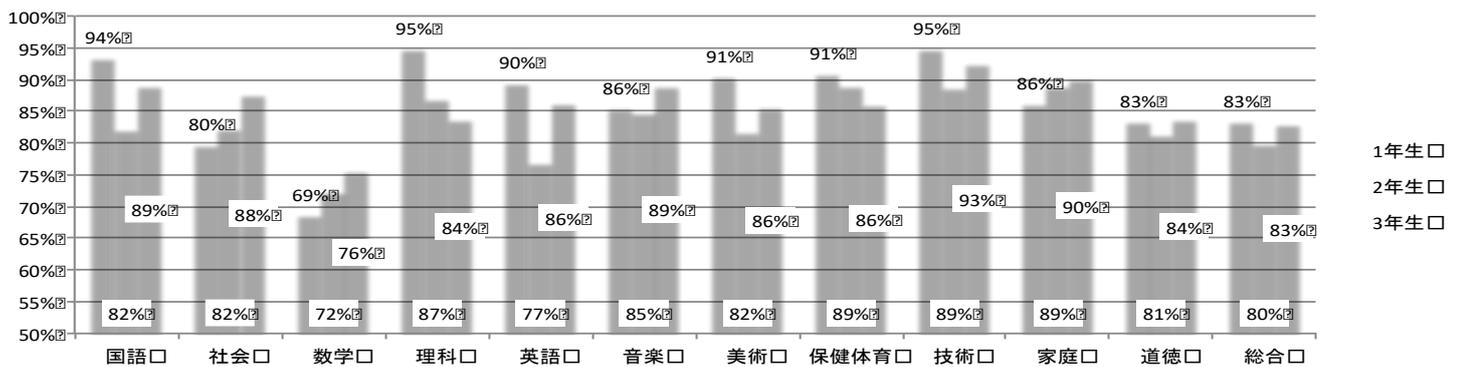
## 質問：授業の理解度 「(各教科の) 授業内容は、よくわかる」

※昨年度は「各教科を理解している」かどうかを尋ねたが、授業評価に絞るため、今年度は「各教科の授業内容を理解している」かどうかについて尋ねた。

- 【全校生徒】・授業内容の理解度について、肯定的な回答をした生徒が全体的に8割を超えており、その中でも技術は9割を超えている。  
 ・数学は7割前半で、授業内容を「理解している」という実感を持ってない生徒がやや多い。



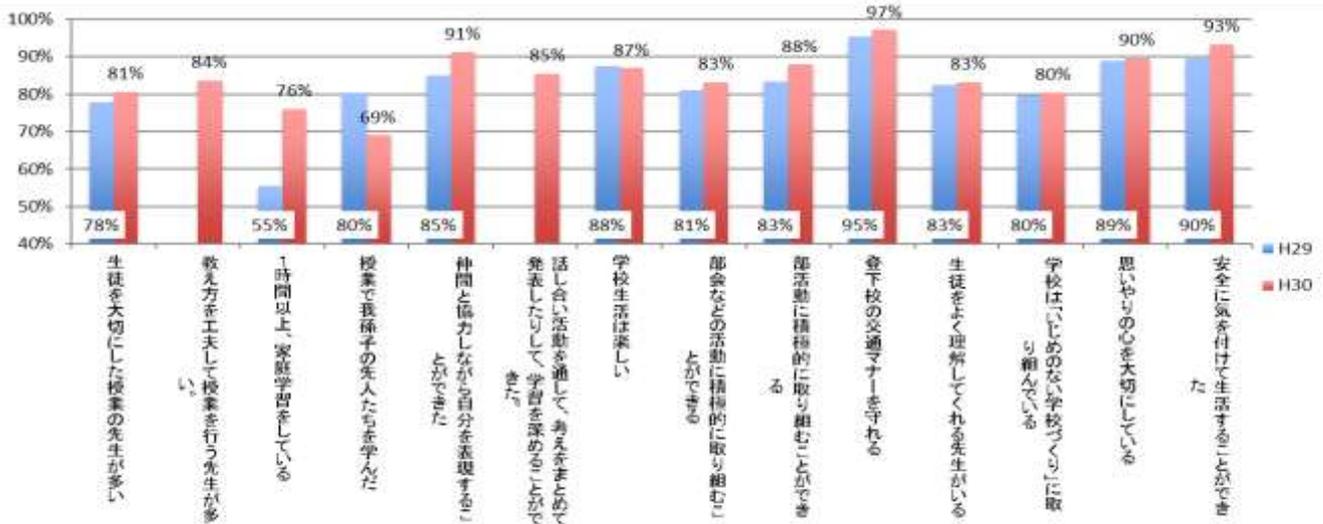
- 【学年別】・1年生は8割を超える生徒が理解できたと感じているが、数学は7割を切っている。特に、国語(94%)、理科(95%)、技術(95%)の理解度が高い。  
 ・技術はどの学年も9割前後で高い理解度である。  
 ・8割を切っている教科(1・2・3年数学、2年英語)があるので、改善を図ってきたい。



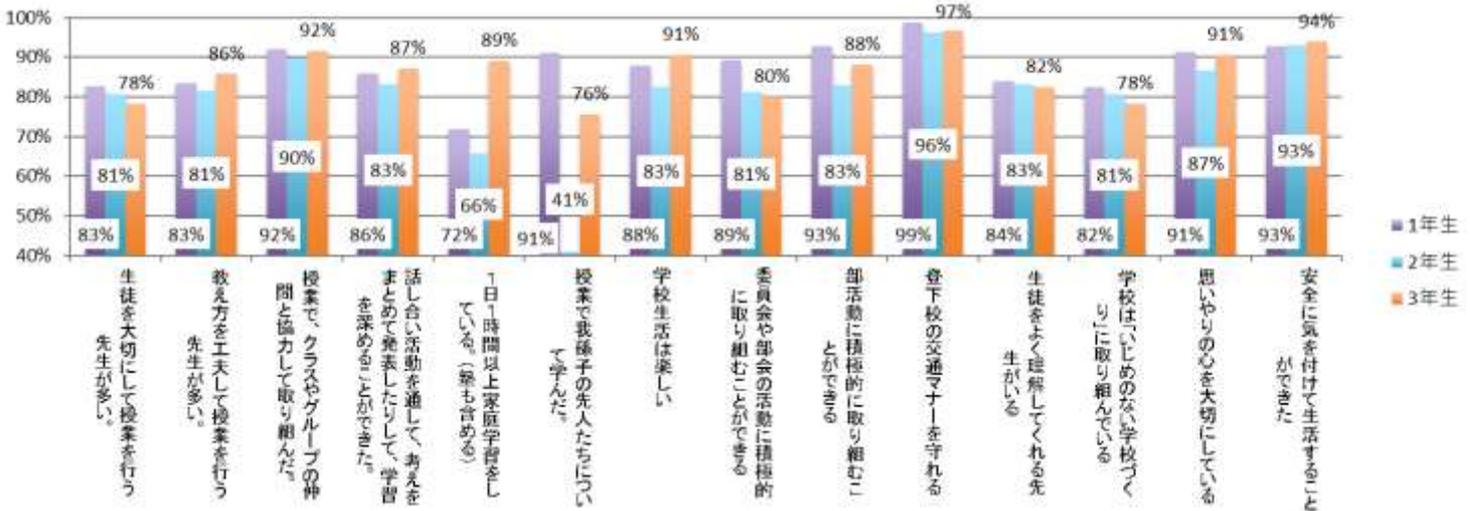
## (2) 生徒の家庭学習・学校生活などについて

※昨年度と質問を変えたところは、「先生が教え方を工夫しているかどうか」を尋ねた点と、対話を大切にした学習方法で「深い学び」を実現できているという実感があるかどうか尋ねた点である。また、今年度から家庭学習に塾での学習も含んでいる。

### 【昨年度との比較】



【学年別】



\*\*学習について\*\*

- ・「生徒を大切にした授業を行う」「教え方を工夫している」と答えた生徒がともに8割を超えている。
- ・対話型の活動で学習を深められたと考えている生徒は8割を超え、さらに他の生徒と協力できたと考えている生徒が9割を超えている。
- ・家庭学習への取り組みについては塾を入れると全体で7割を超えたが、1, 2年生で8割を割っているので家庭学習を習慣化させたい。
- ・我孫子の先人についての学びが2学年で積極的に行われていない実態があるので、改善する必要がある。

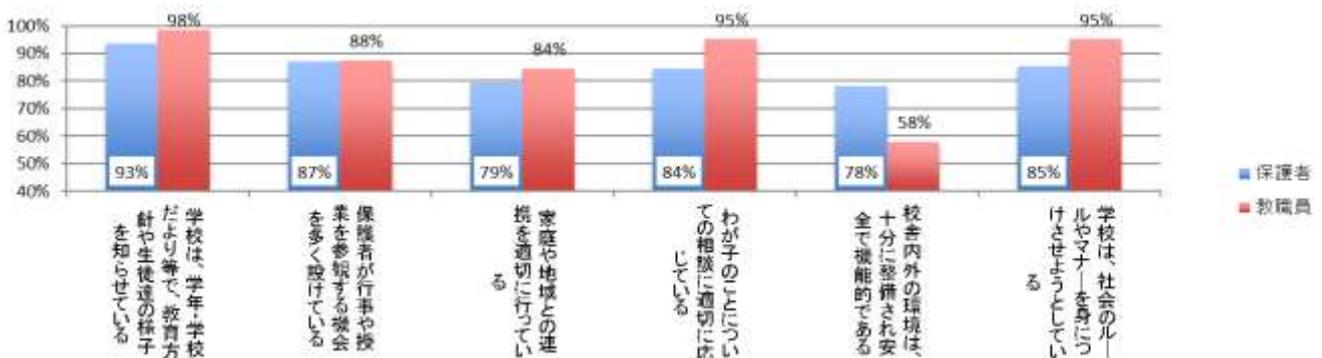
\*\*学校生活について\*\*

- ・「学校生活が楽しい」と感じる生徒は昨年とほぼ同程度だが、学年差があるのでしっかりサポートする。
- ・委員会、部会といった自治活動に対する取り組みへの意識が、1年生で高い。
- ・部活動への取り組みの意識が全体で5%向上している。
- ・「登下校のマナー」を守っていると思う生徒が97%おり、全体的に意識が高まっている。
- ・「思いやりの心を大切にしている」と回答した生徒の割合が、28年度78%から昨年度89%、さらに今年度は1%上がっており、相手の気持ちや立場になって考えようとする生徒が増えている。

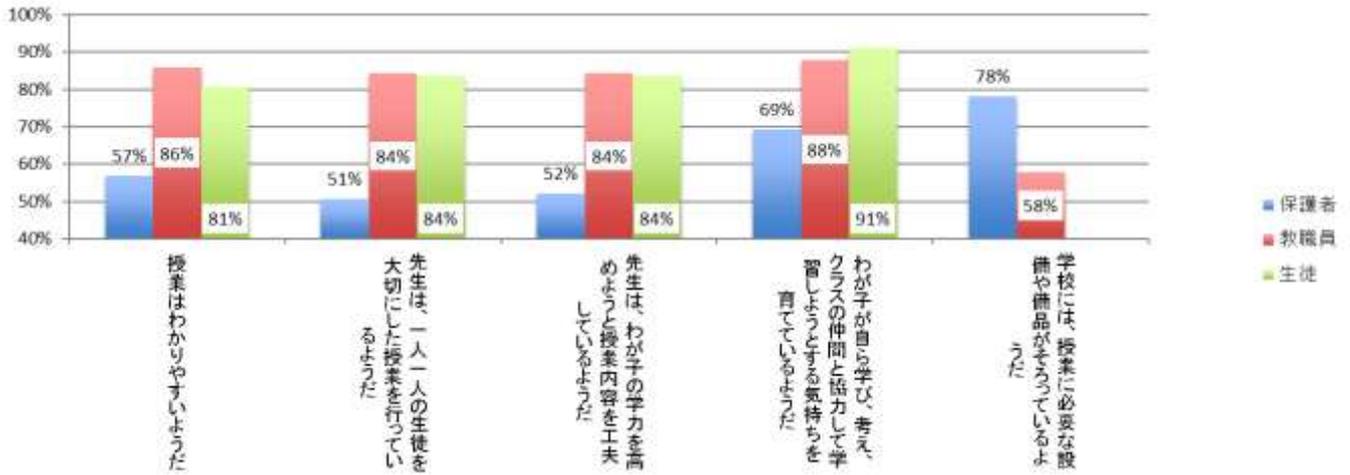
\*\*教師・学校の取り組み\*\*

- ・「生徒のことを理解する教師」は、昨年度と同じく83%である。日常の教師の声かけ・相談活動を大切に、生徒の声を聴くとともにアンケート結果やQU検査等を活用し、生徒理解に力を注いでいきたい。
- ・「いじめのない学校づくり」への取り組みは、2割の生徒が足りないと考えている。いじめのない学校の実現に向けて、市教委や外部機関と連携しながら、さらに学校全体で取り組みを強化していく。

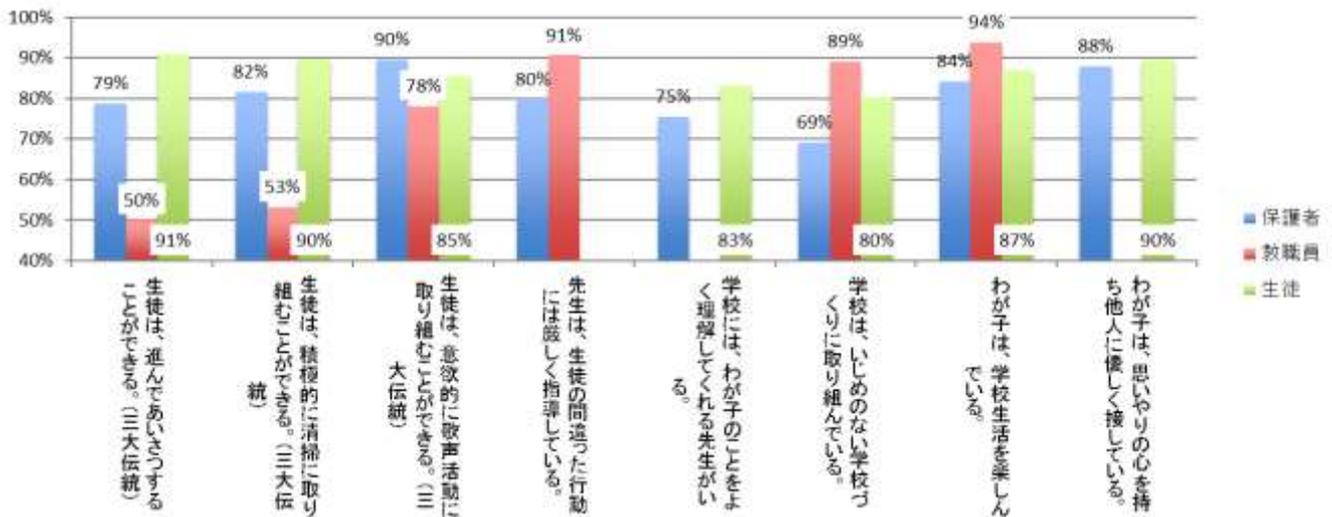
< 保護者 > ~ 教師と保護者と教師（と生徒）の回答を比較 ~  
(1) 学校運営について



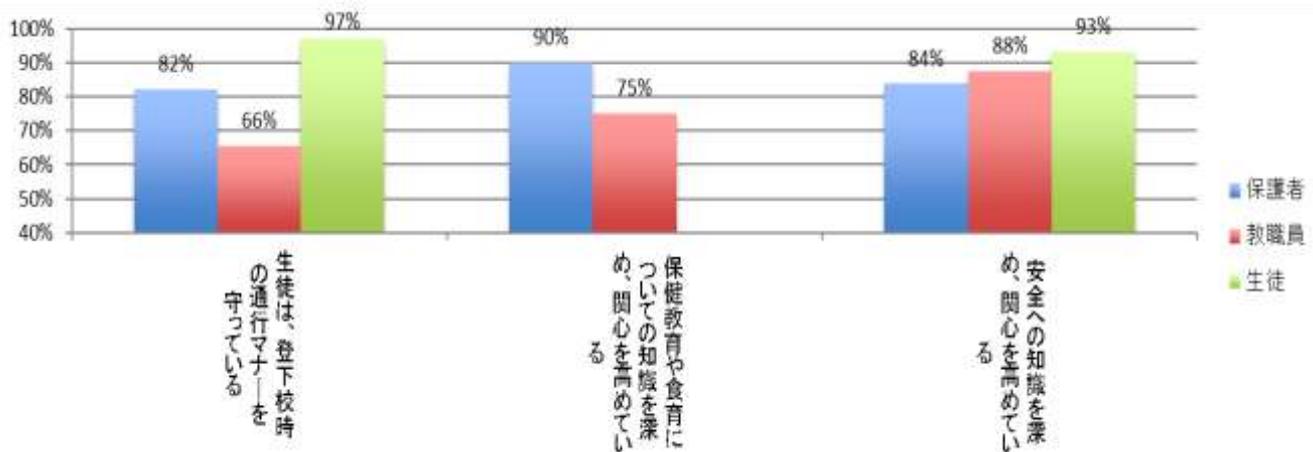
## (2) 学習指導



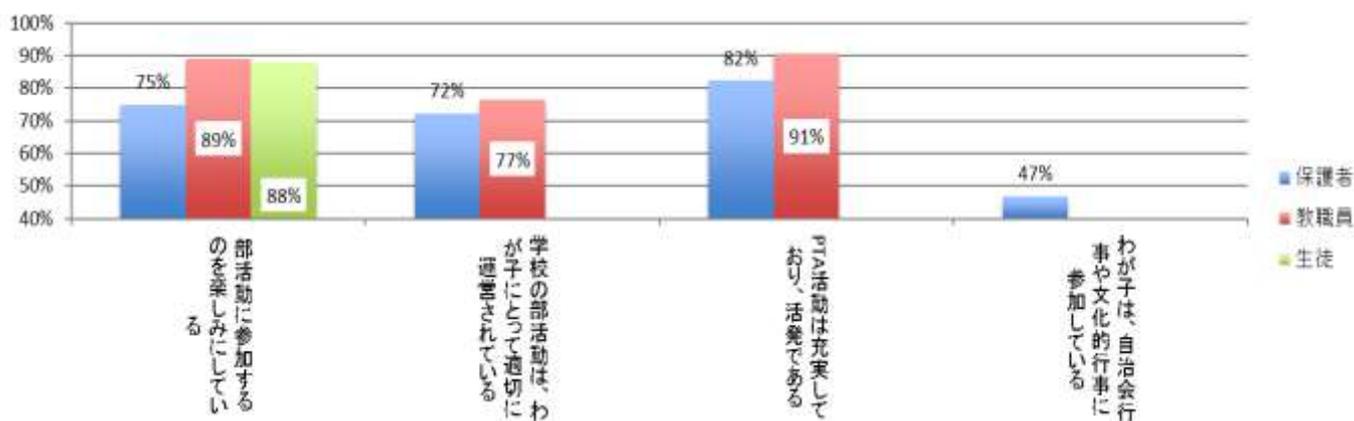
## (3) 生徒指導について



## (4) 健康・安全面について



## (5) 部活動・PTA活動について



・**学校運営** では、学年・学校だよりを通しての広報については評価が上がったものの、「学校と家庭、地域との連携」と「教育相談」「社会ルールの遵守」について、保護者と職員の間意識の差がある。学校で取り組んでいることを日頃から広く保護者・地域に伝えていくと同時に、より意識して家庭や地域との連携や教育相談を進める必要がある。また、社会ルールやマナーの指導については、保護者や地域の方々にも協力を仰ぎながら、意識の高揚を進めていきたい。

・**学習指導** では、肯定的な評価をした保護者の回答が昨年度は6割から7割だったが、今年度は5割程度の厳しい評価である。この表には出ていないが、特に1,2年生の保護者からいただいた回答にその傾向が強い。「授業のわかりやすさ」、「生徒を大切にすること」、「授業の工夫」について、生徒と教職員の肯定的回答の割合はほぼ同じであるが、保護者の肯定的回答と3割ほど差がある。考えられる要因として、保護者に授業を見ていただく機会が少ないこと、学力観に差がある可能性があることが考えられる。2021年度から完全実施される新学習指導要領で求められている学力の概念について保護者会や広報を通して、理解していただくとともに、授業を実際に見ていただく機会を増やして、保護者とともにこれからの時代を生き抜ける「生きて働く学力」の育成に努めたい。

・**生徒指導面**については、「挨拶」や「清掃」、「いじめのない学校づくりへの取り組み」で、保護者・生徒と教師の間で、評価に差が出ている。歌声の評価は高いものの、他の三大伝統(挨拶・清掃)についても取り組みが充実するよう、生徒とともに取り組んでいきたい。また、「学校生活を楽しんでいるか」という点で、教職員と生徒の評価に差があるので、保護者の協力を仰ぎながら、生徒理解に努めていきたい。

・**健康・生活面**では、登下校のマナーについて、保護者・生徒は8割以上の肯定的回答が得られているが、教師からの評価との間には差がある。登下校のマナーについては課題があるので、保護者、地域の協力を得ながら引き続き取り組みたい。防災などの安全への知識については保護者・生徒・教職員ともに高い評価が出ているが、防災訓練を通して充実させていきたい。

・**部活動指導**については、「部活動を楽しみにしている」という点で生徒と教職員はほぼ同じ評価だが、保護者との差がある。部活動の運営についてはほぼ保護者と教職員の評価は変わらない。今後は教員の働き方改革という課題への取り組みの中で、保護者の理解と協力をいただきながら、運営方法、指導方法等について一考をしていきたい。

・「**生徒の地域の行事への参加**」がまだ50%以下なので、地域の行事を大切にする意識を学校としても高めていきたい。

## <全体を通して>

### ① 学習指導

- ・重点項目のひとつである『学力向上』については、平成27年度より3年間国や県の指定を受け、「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の展開により、子どもたちが「わかった」「学ぶのが楽しい」「もっと学びたい」と感じる授業づくりに取り組んできた。その中で、これまでの学校評価では教科への学習そのものを問うていたが、本年度の学校評価から授業についての評価に絞って生徒

に回答を求めることとし、課題が見えやすくなるようにした。見えてきた点として、生徒は積極的に授業に取り組もうとしていること、2年生で「中だるみ」の傾向がみられること、技術科を始め技能教科で意欲が見られるが、数学は積極性が低い傾向が見られることがわかった。授業の理解度はほぼ全教科で8割を超えているが、数学は7割程度である。数学は積み上げ型の学習なので、小学校からの取り組みの影響が大きい。来年度から全面実施となる、小中一貫教育をかして生徒が理解できていない面を補充しつつ、中学校側からも「これができていないと困る」という点を伝え、より取り組みを充実させていきたい。これは他教科でもいえる点である。また、授業づくりについて、生徒と教職員の評価はほぼ一致しているので、保護者の理解が得られるよう工夫していきたい。

- ・補習や学習サポートについてもテスト前や放課後、今年度同様計画し、生徒が参加しやすいように呼びかけや時間の設定等、工夫をしていきたい。

## ② 生徒指導・安全面

- ・自転車の乗り方、登下校のマナーについて、9割を超える生徒が守っていると回答しているが、学校から離れるに従ってマナーが乱れるという旨の連絡も受けているので、各家庭や地域、生徒会活動（安全委員会）と連携して、安全指導に努めていく。
- ・携帯やメール、SNS等の使用に関する情報教育については、それらを効果的に使う方法を指導すると共に、誤用によるトラブルを避けるためにも、保護者・PTAの協力を仰ぎながら、計画的に行っていく。
- ・挨拶・清掃・歌声の「三大伝統」については、職員の率先垂範に合わせ、本年同様、委員会活動を活性化し生徒会とも連携し、引き続き取り組んでいく。
- ・いじめについては、人間関係作りやコミュニケーション能力を育てる指導と併せて学校全体でこれからも取り組んでいく。「いじめは許さない」という意識と、「自分さえよければよい」という自己中心的な考えではなく、人に対して思いやりの気持ちをもって接することができるよう、道徳の時間を始めとして日頃から取り組みたい。また、教育相談の時間をとるなど一人一人に目を向け、日常の観察や生活記録帳などを大切に、職員の横の連絡および保護者の協力を仰ぎながら、迅速な対応をしていく。

## ③ 部活動指導

- ・結果偏重にならないように、体力向上や人間関係づくりの場面と捉えて取り組んでいく。学習や家庭生活とのバランスも考慮し、平日と週末各1日は完全休養日を設ける。
- ・下校時の安全指導や交通マナーについて、日常的に声かけをしていく。
- ・部活動の計画、情報発信についても、顧問が確実に連絡できるように努める。

## ④ 教師の指導

- ・若年層職員が多くなってきた中、指導方法の研修のみならず、教員である前に社会人としての言葉遣いやマナー等も研修していきたい。

## ⑤ その他

- ・HPの更新やメール等による情報提供・発信については機会を捉え丁寧に行っていきたい。授業参観を通じて、保護者に学習の様子も理解してもらっていく。

## 【学校評議員会議より】

- ・授業についての評価が、生徒と教員はほぼ一致しているが、保護者は評価が低いという傾向が出ていることについて、保護者の子どもへの期待が高いため、もっと勉強を頑張してほしいと思っていることの表れではないか。家庭で子どもたちが勉強をしないで、ゲームやスマホなどに時間を使っている、それを家庭で注意して

も子どもが言うことを聞かない状況があつて、学校にそれを求めても難しい。家庭でしっかり復習や予習をする習慣をつけさせたい。そういう意味で、家庭と学校の協力が求められる。

- 塾でははっきりとデータでやっていることを示していると聞く。学校でも参考にしてみようか。
- 学校の施設について、教員の評価が低いので、安全面等で心配な箇所は市にお願いして改善してもらってほしい。それでケガがあつては一大事。市の予算ということもあるが、そのままにしないでほしい。
- 野田の事件について、子どもの訴えを受け入れられず、保護者の脅しに屈してしまったという問題があつた。我孫子市や我孫子中がこの事件の二の舞を起こさないという決意を示してほしい。
- 文部省がスマートフォンを解禁にするということがニュース等に出ているが、学校で様々な問題が出てくると考えられる。学校でスマホは使用できないとしても問題がないのではないか。
- 予餞会など行事で、子どもたちの様子を見て、本当にすばらしい発表ですばらしい学校だと思う。このような学校の学区にいられることが幸せだと感じる。周りの人たちの温かさに支えられていることを行事を通じて子どもたちも見て大人も感じるができる良い機会になっている。